

「Somewhere I Have Never Travelled～切り火を持って」

2017年 3月11日(土) - 4月15日(土)

この度 URANO では、3月11日 - 4月15日までグループ展「Somewhere I Have Never Travelled～切り火を持って」を開催いたします。

タイ北部チェンマイにある HIV 孤児生活支援施設「バーンロムサイ」の子どもたちと美術作家をつなぐプロジェクト、および、ふたつのアート・ホテルの完成を記念した発表の場として協力させていただくことになりました。



1

「文化・アートと寄り添うホテル」というコンセプトのもとに、沖縄・那覇市の国際通りにオープンしたばかりの「ホテル WBF アートステイ那覇」は、「バーンロムサイ」の子どもたちが描いた絵と、9名の写真家、石内都、川内倫子、木村友紀、志賀理江子、進藤環、長島有里枝、名取洋之助、野村佐紀子、米田知子による作品を壁面に展開、各客室すべてが違う絵柄、レイアウトで構成され、部屋自体がひとつの異空間＝旅となるようなホテルとなりました。また、続く二棟目となり現在施工中である「ホテル WBF アートステイなんば」も、子どもたちが描いた絵と、浅井裕介、笠井麻衣子、川内倫子、炭田紗季、志賀理江子、高田安規子・政子、はまぐちさくらこ、松本力、米田知子の協力のもと、大阪・難波に5月にオープンします。

客室をのびやかに楽しく彩る子どもの絵は、1999年12月、北タイ・チェンマイ郊外に設立された HIV に母子感染した孤児・遺児たちの生活施設「バーンロムサイ」の子どもたちによるものです。「バーンロムサイ」では、「絵を描くこと」により子どもたちの免疫力を表す数値が回復し「つくり出す力」に命を支えられた経緯から、薬だけではなく、沢山のボランティアや技術指導をしてくださる方々の協力のもとに、衣食住の中にも創造力を育てる+artの思いをベースとし今に至ります。

そこにある、目に見えないクリエイティブのちからを信じてできる事。

その筆頭としてのホテルプロジェクトは、株式会社ホワイト・ベアーファミリーの協力を得て現れたかたちです。

場所を問わず、形式にとらわれることなく、垣根を越えて繋がり合う事ができるのではないのでしょうか。

バーンロムサイ 名取美穂
artdish g 沢渡麻知

URANO

〒140-0002
東京都品川区東品川1-33-10-3F
TERRADA Art Complex 3F 1-33-10
Higashi-Shinagawa Shinagawa-ku
Tokyo 140-0002 Japan
Tel +81-(0)3-6433-2303
info@urano.tokyo
www.urano.tokyo

1.
川内 倫子
「Untitled」
2014年
framed: h.120.0 x w.120.0 cm
ラムダプリント

本展では、バーンロムサイの子どもたちの絵と、このプロジェクトに賛同し、ご協力いただいた作家たちによる作品を展示いたします。 つきましては、本展の広報にご協力賜りたく、ここにご案内申し上げます。

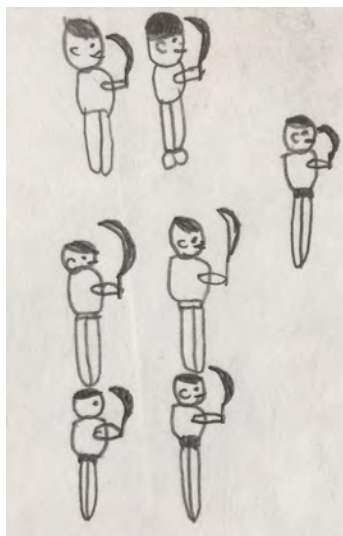
「Somewhere I Have Never Travelled～切り火を持って」



2



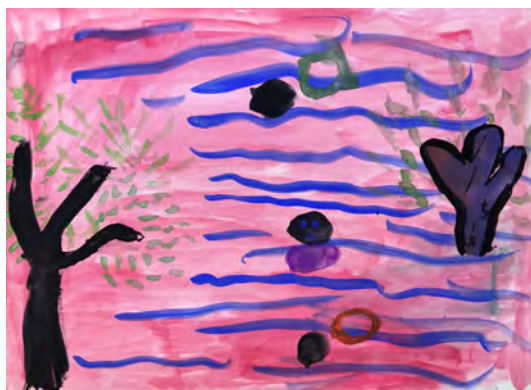
3



4



5



6

<展覧会概要>

展覧会タイトル:「Somewhere I Have Never Travelled～切り火を持って」

会期:2017年3月11日 - 4月15日

オープングレセプション:3月11日(土) 18:00 - 20:00

開廊時間:火 - 木 11:00 - 18:00 / 金 11:00 - 20:00 / 土 11:00 - 18:00

会場:URANO 東京都品川区東品川1-33-10-3F

03-6433-2303 www.urano.tokyo info@urano.tokyo

参加作家:浅井裕介、石内都、笠井麻衣子、川内倫子、木村友紀、進藤環、炭田紗季、高田安規子・政子、長島有里枝、名取洋之助、野村佐紀子、はまぐちさくらこ、松本力、米田知子(※敬称略、五十音順)

協力:AKIO NAGASAWA、株式会社アーキヴィジョン広谷スタジオ、artdish g、一般財団法人日本カメラ財団、NPO 法人バーンロムサイジャパン、株式会社ホワイト・ベアーファミリー、gallery ART UNLIMITED、The Third Gallery Aya、シュウゴアーツ、タカ・イシイギャラリー、MAHO KUBOTA GALLERY、ユカ・ツルノ・ギャラリー(※敬称略、五十音順)

URANO

〒140-0002
東京都品川区東品川1-33-10-3F
TERRADA Art Complex 3F 1-33-10
Higashi-Shinagawa Shinagawa-ku
Tokyo 140-0002 Japan
Tel +81-(0)3-6433-2303
info@urano.tokyo
www.urano.tokyo

2.~6.
バーンロムサイの子どもたちの絵

「Somewhere I Have Never Travelled～切り火を持って」

ホテル WBF アートステイ那覇

住所：沖縄県那覇市牧志1-3-43

お電話でのご予約：Tel. 098-861-7070

<https://www.hotelwbf.com/artstaynaha/>

アートワーク：名取洋之助、石内都、川内倫子、木村友紀、志賀理江子、進藤環、長島有里枝、野村佐紀子、米田知子

設計：株式会社アーキヴィジョン広谷スタジオ

アートディレクション：沢渡麻知

ホテル WBF アートステイなんば

※2017年5月オープン予定

アートワーク：浅井裕介、笠井麻衣子、川内倫子、炭田紗季、志賀理江子、高田安規子・政子、はまぐちさくらこ、松本力、米田知子

設計：株式会社アーキヴィジョン広谷スタジオ

アートディレクション：沢渡麻知

特定非営利活動法人（NPO 法人）バーンロムサイジャパン

<http://www.banromsai.jp>

1999年の開園当初のタイではエイズが猛威をふるい、治療薬が行き渡らず多くの人が感染・発症し亡くなっていました。エイズにより両親を失う子どもたちが増加し、バーンロムサイにも国立孤児院からそのような子どもたちが入園。開設から3年間で10人の子どもがエイズを発症し、命を落としました。

HIV/AIDSはその後の躍進的な医療の発達により、投薬を続けていれば普通に生活を送ることが可能となり、現在子どもたちは全員元気に暮らしています。

医療の発達により母子感染を防げるようになった今、HIVには感染していない、様々な事情で孤児となった子どもたちも入園してくるようになりました。

一方、タイの法律により18歳を超えた子どもたちは園外で生活をしています。卒園生に関しては、学校へ通っている場合は教育費と生活費を、病気の影響により軽度の知的障害を持つ子や体調を崩した子どもたちに対してなど、園外に暮らしていても繋がりを持ち続け、ケアし支援を行っています。

NPO法人バーンロムサイジャパンでは、寄付だけに頼らない運営を目指し、ホームを支える自立プロジェクトとして「プロダクツ」と「コテージリゾート」の運営をしていますが、この事業がいわば“家業”となり、子どもたちの将来の職場や職業訓練の場ともなることを願いつつ展開しています。

現在ホームで生活している27人の子どもたちには27の個性と可能性があります。両親の死、差別や偏見、虐待などの体験をしてきましたが、ここを自分たちの「家」と感じ、「大きな家族」となって、安心して暮らしています。多くを望むわけではありませんが、人を思いやれる気持ちの良い大人に育ってほしい、そしてできることなら自分が得意とすることで、将来生計を立ててもらいたい。そんな親心から、バーンロムサイでは勉強だけでなく、子どもたちがいろいろな体験ができるよう「大きな家族の住む家」という方針のもと、様々な取り組みを行っています。

*「バーンロムサイ」とは？

タイ語で「ガジュマルの木の下の家」を意味する「バーンロムサイ」は、暑い時には日陰を、雨降りの時には雨宿りの場を与えてくれる大きくどっしりと大地に根をはるガジュマルの木のごとく、子どもたちが安心して暮らし、学び、遊べる場でありたいとの願いが込められています。

URANO

〒140-0002

東京都品川区東品川1-33-10-3F

TERRADA Art Complex 3F 1-33-10

Higashi-Shinagawa Shinagawa-ku

Tokyo 140-0002 Japan

Tel +81-(0)3-6433-2303

info@urano.tokyo

www.urano.tokyo

「Somewhere I Have Never Travelled～切り火を持って」

- 展示作家

浅井裕介（1981年東京都生まれ）

現地で採取した土と水で描く「泥絵」、植物のように壁に広がるマスキングテープの上にペンで描く「マスキングプラント」、道路用の白線素材を地面に焼き付けて描く「植物になった白線」など、身の回りの様々な素材を用いて、室内外問わずありとあらゆる場所に奔放に絵を描く。近年はヒューストンの Rice University Art Gallery、東京都現代美術館、箱根彫刻の森美術館、青森県立美術館、ヴァンジ彫刻庭園美術館で立て続けに10mをゆうに超える泥絵の大作を発表し注目を集めた。

石内都（1947年群馬県生まれ）

初期三部作で街の匂い、気配、空気をとらえ、同い年生まれの女性の手と足の作品「1・9・4・7」以降、身体にのこる傷跡シリーズを展開。1999年東京国立近代美術館「時の器」個展。2005年母の遺品シリーズ「Mother's 2000-2005 未来の刻印」ヴェネチア・ビエンナーレ日本代表展示。2008年広島市現代美術館で広島原爆資料館に収蔵されている遺品を作品化した個展「ひろしま - Strings of Time」を発表。2012年丸亀市猪熊弦一郎現代美術館にて銘仙きものを撮影した個展「絹の夢」を開催。メキシコのフリーダ・カーロ博物館に保管されているフリーダ・カーロの遺品の撮影をする。

2013年ロンドン、テートモダンにて収蔵展「絶唱、横須賀ストーリー」。ロンドン、マイケル・ホッペンギャラリーにて「Ishuchi Miyako」個展。2014年個展「Ishuchi Miyako - The Fabric of Photography」Hasselblad Center: ヨーテポリ、2015年ロサンゼルス、J・ポール・Getty美術館、「横須賀」から「ひろしま」まで個展「Postwar Shadows」。2016年個展「幼き衣へ」島根県立石見美術館。「Frida is」銀座・資生堂ギャラリーにて個展。2017年個展「肌理と写真」横浜美術館にて開催予定。

笠井麻衣子（1983年愛知県生まれ）

笠井麻衣子は、日常生活で目にする風景に自身の作り上げた物語を練り込み、その想像上の物語の中で生活するための訓練の必要度や、社会的に制御された側面を描き出す。勢いのある筆致と大胆なコンポジションが特徴の画面には、少女や着ぐるみなど、様々な物語を想起させるユニークなモチーフが登場。最近では、カラヴァッジョなど巨匠たちの技法と歴史的、神話的な作品に感化され、彼女なりの方法で作品の真意に近づこうと、彼らが描いた主題を日本の伝統的な視点である鳥瞰図として描いている。

川内倫子（1972年滋賀県生まれ）

2002年『うたたね』『花火』で第27回木村伊兵衛写真賞を受賞。個展・グループ展は国内外で多数。主な個展に、「AILA + Cui Cui + the eyes, the ears,」カルティエ財団美術館（2005年/パリ）、「照度あめつち 影を見る」東京都写真美術館（2012年）、「川が私を受け入れてくれた」熊本市現代美術館（2016年）などがある。国際写真賞「プリピクテ」の最終候補に選出され、5月からV&A美術館（ロンドン）を皮切りに世界巡回するグループ展に参加。6月に新作写真集『Halo』をAperture（日本語版はHeHe）より出版予定。

木村友紀（1971年京都府生まれ）

1996年京都市立芸術大学にて修士課程修了。現在ベルリンを拠点に活動。写真を主題に空間と時間、または次元をテーマにしたインスタレーション形式の作品を発表している。「OCEAN OF IMAGES: NEW PHOTOGRAPHY 2015」ニューヨーク近代美術館（2015年）、第30回サンパウロ・ビエンナーレ（2012年）などに参加。主な個展として「Inhuman Transformation of New Year's Decoration, Obsolete Conception or 2」CCA Wattis Institute（サンフランシスコ、2016年）、「無題」IZU PHOTO MUSEUM（静岡、2010年）等がある。

進藤環（1974年東京都生まれ）

武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻油絵コース修了。東京総合写真専門学校第二学科修了。2011年「クロックポジション」INAXギャラリー2（東京）、2014年「Unknown Nature No.5」あゆみギャラリー（東京）、2015年「妻有アートトリエンナーレ2015」アジア写真映像館（新潟）、2015年「漂白の地」ギャラリー・アートアンリミテッド（東京）、作品集「飛び越える、道をつないで」ハモニカボックス 2014年出版。現在、九州産業大学芸術学部写真・映像学科専任講師。

炭田沙季（1985年岡山県生まれ）

炭田はこれまで、富士山や七福神などいわゆる伝統的で日本らしいモチーフとそうでないものを組み合わせた風景を描いてきている。古来の異文化交流のなかから生じたにもかかわらず、いつしか「日本のオリジナル」として定着したイメージをあえて西欧の伝統的な油絵で対比的に再現する試みは、複数の文化が混ざり合った私たちの生きる場所を際立たせている。現在の日本では、複数の混じり合った風景は日常的であるにも関わらず、炭田の描く記念写真や観光地の宣材、神話的物語の一場面などとして絵画上に再構築された風景は、依然として異質でシニカルな組み合わせに見える。

URANO

〒140-0002
東京都品川区東品川1-33-10-3F
TERRADA Art Complex 3F 1-33-10
Higashi-Shinagawa Shinagawa-ku
Tokyo 140-0002 Japan
Tel +81-(0)3-6433-2303
info@urano.tokyo
www.urano.tokyo

「Somewhere I Have Never Travelled～切り火を持って」

高田安規子・政子（1978年東京都生まれ）

2005年ロンドン大学スレード校美術学部修士課程修了。一卵性双生児のユニットで制作活動している。日常風景や身近なものに手を加えることで、市場価値の変換や、空間や時間感覚の認識に問いを投げかける作品を発表している。主な展覧会に2016年「さいたまトリエンナーレ」（埼玉）、2015年「線を聴く」銀座メゾンエルメス フォーラム（東京）、「春を待ちながら やがて色づく風景をもとめて」十和田市現代美術館（秋田）。2014年「MOT アニュアル 2014 フラグメントー未完のはじまり」東京都現代美術館（東京）。2011年「かかわりの色いろ」水戸芸術館（茨城）。2010年「Bigminis」ボルドー現代美術館（ボルドー / フランス）。

長島有里枝（1973年東京都生まれ）

1995年、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業、1999年、カリフォルニア芸術大学ファインアート科写真専攻修士課程修了。1993年、「アーバーナート #2」展パルコ賞を受賞、2001年、第26回木村伊兵衛賞受賞。2010年には『背中への記憶』（講談社）で第26回講談社エッセイ賞を受賞した。アイデンティティや家族など、他者との関係性をテーマに写真作品を制作する一方、近年では女性のライフコースに焦点をあてたインスタレーション作品を発表している。近年の主な展覧会には2015年「5 Comes After 6」（UTRECHT / 東京）、2014年「拡張するファッション」（水戸芸術館現代美術ギャラリー / 茨城 および丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 / 香川）、2012年「開館10周年記念展 庭をめぐれば」（ヴァンジ彫刻庭園美術館 / 静岡）、2008年「THEFURIOUS GAZE」（El Centro Cultural Montehermoso / ヴィットリア、スペイン）などがある。2017年秋には東京都写真美術館で個展が予定されている。

名取洋之助（1910年東京都生まれ、1962年没）

慶応義塾普通部卒業後に渡独。1931年よりウルシュタイン社契約写真家となって『Berliner Illustrierte Zeitung』などで活躍。1933年に日本へ拠点を移し、報道写真の制作集団「日本工房」を結成。対外宣伝グラフ誌『NIPPON』（1934年創刊）などを制作・刊行。1937年に『LIFE』契約写真家となりアメリカを取材旅行。日中戦争勃発後は、財団法人国際文化振興会や陸軍の写真配信に携わる。戦後は、『週刊サンニュース』（1947年創刊）、『岩波写真文庫』（1950年創刊）の編集長格として活躍。作品集は『GROSS JAPAN (DAI NIPPON)』（KARL SPECHT / 1937年）、『麦積山石窟』（岩波書店 / 1957年）ほか。著書は『写真の読みかた』（岩波新書 / 1963年）ほか。

野村佐紀子（1967年山口県生まれ）

九州産業大学芸術学部写真学科卒業。91年より荒木経惟に師事。'93年より東京中心にヨーロッパ、アジアなどでも精力的に展覧会をおこなう。おもな著書に？『裸ノ時間』（平凡社）『愛ノ時間』（BPM）『黒猫』（t.i.g）『夜間飛行』（リトルモア）『黒闇』（Akio Nagasawa Publishing）『nude/a room/flowers』（match and company, inc.）『hotel Pegasus』（Libro Arte）『sex/snow』（Libro Arte）『TAMA-NO』（Libro Arte）『flower』（Libro Arte）『another black darkness』（Akio Nagasawa Publishing）『雁』（BCC）などがある。

はまぐちさくらこ（1981年京都府生まれ）

京都嵯峨美術短期大学絵画Ⅲコース卒業。GEISAI5にて金賞受賞。みづゑ絵本大賞受賞。2010年の国立国際美術館「絵画の庭ーゼロ年代日本の地平からー」2013年東京都現代美術館「オバケとパンツとお星さま」に作品出品。絵本『ばばごはん』ピリケン出版より刊行。『ぱんつちゃん』岩崎書店より刊行。イベントにてライブペインティング、ワークショップなど国内外にて多岐に渡り活動中。

松本力（1967年東京都生まれ）

絵かき、映像・アニメーション作家、東京都在住。1991年多摩美術大学美術学部GD専攻卒業。再生紙にコマ割りのドローイングを描き、透過光を加えてビデオ撮影する手法で「時間の絵」によるアニメーションの映像表現を目指す。異なる表現者との共同制作も多く、特に音楽家「オルガノラウンジ」「VOQ」とのライブ表現活動を行う。映像作品の国内外での展示や、自作映像装置「絵巻物マシーン」シリーズによるワークショップを町中や学校や美術館など、国内外の公共の場で積極的に実施している。「Unknown Nature」AYUMI Gallery、「オバケとパンツとお星さま」東京都現代美術館、「イメージの手ざわり展」横浜市民ギャラリーあざみ野、「第3回恵比寿映像祭 デイドリーム ピリーパー !!」東京都写真美術館、「映像作品上映会 MOVING」京都シネマ等に出演。

URANO

〒140-0002
東京都品川区東品川1-33-10-3F
TERRADA Art Complex 3F 1-33-10
Higashi-Shinagawa Shinagawa-ku
Tokyo 140-0002 Japan
Tel +81-(0)3-6433-2303
info@urano.tokyo
www.urano.tokyo

「Somewhere I Have Never Travelled～切り火を持って」

米田知子（1965年兵庫県生まれ）

ロンドン在住。「記憶」と「歴史」をテーマに作品を制作。「ふぞろいなハーモニー展」広島・台北（2015年・2016年）、光州ビエンナーレ（2014年）、あいちトリエンナーレ（2013年）、キエフビエンナーレ（2012年）など多くの国際展に参加。近年の個展に「暗なきところで逢えれば」（東京都写真美術館、姫路市立美術館 2013 - 2015年）がある。来年以降にはパリ日本文化会館で個展、スペインのマフレ財団で個展の予定している。

URANO

〒140-0002
東京都品川区東品川1-33-10-3F
TERRADA Art Complex 3F 1-33-10
Higashi-Shinagawa Shinagawa-ku
Tokyo 140-0002 Japan
Tel +81-(0)3-6433-2303
info@urano.tokyo
www.urano.tokyo



7



8

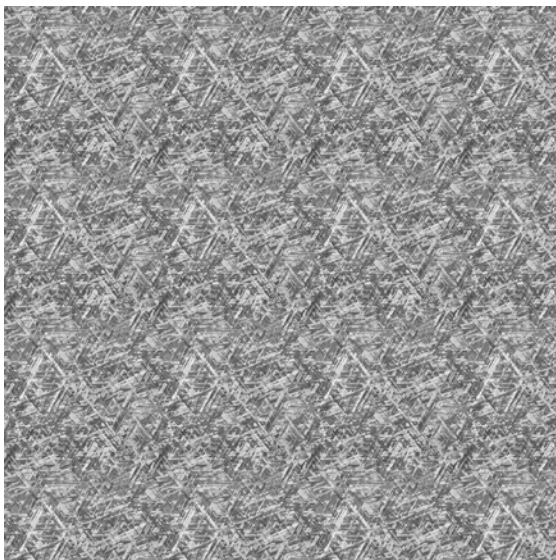


9

7. 米田 知子
「恋人、ドゥナウーイヴァーロシュ
（スターリン・シティと呼ばれた町）、
ハンガリー」
h.66.0 x w.84.0 cm
2004年、クロモジェニックプリント
Courtesy of ShugoArts

8. 石内 都
「sa・bo・ten#18」
h.43.0 x w.28.8 cm
2013年、タイプCプリント
Courtesy of The Third Gallery Aya

9. 名取 洋之助
「摩天楼から紙飛行機を飛ばす紳士 シカゴ」
image: h.43.2 x w.35.6 cm
framed: h.50.8 x w.40.6 cm
1937年、ゼラチンシルバープリント
Courtesy of Japan Camera Industry Institute



10



11



12



13

URANO

〒140-0002
東京都品川区東品川1-33-10-3F
TERRADA Art Complex 3F 1-33-10
Higashi-Shinagawa Shinagawa-ku
Tokyo 140-0002 Japan
Tel +81-(0)3-6433-2303
info@urano.tokyo
www.urano.tokyo

10. 木村 友紀
「Meteorite Pattern
#Great Nama Land, Namibia
(Iron, Fine octahedrite)」
h.90.0 x w.90.0 cm
2016年、ゼラチンシルバープリント、
アルミにアクリルマウント、フレーム
Courtesy of Taka Ishii Gallery

11. 長島 有里枝
「ピンクの野生の花」
image: h.70.4 x w.47.0 cm
framed: h.72.9 x w.49.5 x d.3.7 cm
2007年、タイプCプリント
Courtesy of MAHO KUBOTA GALLERY

12. 野村 佐紀子
「NUDE/A ROOM/FLOWERS」
image: h.37.5 x w.56.0 cm
framed: h.55.0 x w.72.0 cm
2012年、ゼラチンシルバープリント
Courtesy of AKIO NAGASAWA

13. 進藤 環
「骨々と風に曳きずられ」
h.40.0 x w.58.0 cm
2014年、タイプCプリント
Courtesy of gallery ART UNLIMITED



14



15



18



16



17



19

URANO

〒140-0002
東京都品川区東品川1-33-10-3F
TERRADA Art Complex 3F 1-33-10
Higashi-Shinagawa Shinagawa-ku
Tokyo 140-0002 Japan
Tel +81-(0)3-6433-2303
info@urano.tokyo
www.urano.tokyo

14. 浅井 裕介
「土の星の人 3」
h.72.7 x w.60.6 cm
2016年、キャンバスに土、アクリル、
マーカー、コンテ、アクリルレジン、膠

15. 高田 安規子・政子
「ジグソーパズル」
stamp: h.10.3 x w.16.1 cm
base: h.15.0 x w.20.0 x d.1.0 cm
2009年、古切手

16. 松本 力
「さいごのいんでいあん」
7 min. 20 sec.
2014年、アニメーション

17. はまぐち さくらこ
「とおと」
h. 111.0 x w.153.0 cm
2016年、キャンバスにアクリル

18. 笠井 麻衣子
「マールスの目覚め」
h.41.0 x w.41.0 cm
2016年、キャンバスに油彩
Courtesy of Yuka Tsuruno Gallery

19. 炭田 紗季
「庭の鉢植えは波をかぶらない」
h.31.8 x w.41.0 cm
2016年、キャンバスに油彩
Courtesy of Yuka Tsuruno Gallery